

インターネットデータセンター

iDCサービスの最新トレンドと選択のポイント

このコーナーは、注目の製品やサービスについて、それを支える技術や市場動向の解説(セミナー)と具体的な商品を紹介(展示)する、バーチャル展示会。

text: 編集部

今回のテーマは「インターネットデータセンター(iDC)」。近年、様々な付加価値サービスの展開によって、単なる「場所貸し」とは呼べないものが数多く登場しているiDC。ここでは、最近の市場動向と企業のITアウトソーシングにおいてどう選択すべきかを解説する。

iDCの最新市場動向

市場は成長傾向だが需要の柱は不在

iDCが提供するサービスについて解説する前に、最近のアウトソーシングも含めた市場動向や概要について触れておこう。iDC市場にも様々な変化や傾向があり、それによって提供されるサービス内容も変わってきている。市場動向を知ること、長期的な視点での事業者/サービス選びの参考になるはずだ。

WebサービスイニシアティブiDCイニシアティブ部会(旧iDCイニシアティブ)が実施した「インターネットデータセンター市場動向調査2004年度版」によると、まず市場の需要規模は、ハウジングとホスティングを合わせて1,790億円と、前年比で14%ほど伸びている。ただし、成長を牽引する大きな柱と呼べるものはなく、設備の新設や新規参入、撤退はほとんどなく横ばい状態にあるという。利用率を見ると、首都圏市場に限れば39%に達しており、ドットコムバブル崩壊前の水準に戻つつある。センターが乱立した時期からバブル崩壊後にかけて、事業者の統廃合が数多く行われたが、それがやっと落ち着いてきたといえるだろう。また、料金についても、施設乱立期に見られた激しい低価格化競争はなく、安定している。

ユーザーニーズと需要動向については、アウトソーシング案件の増加にともなって、iDC需要の一部がSlerやアウト

ソーシング事業者に取り込まれる傾向が続いている。Slerやアウトソーシング事業者のiDCにおける存在感が強くなってきているわけだが、見方を変えると、Slerを仲介してのiDC利用が増加しているともいえる。企業のアウトソーシングの傾向として、単なるスペースではなく、システムの構築や運用管理まで含むケースが多いということだろう。一方で、従来のiDC事業者が、付加価値としてSIサービスを提供する場合も増えており、アウトソーシング事業者とiDC事業者の境界線があいまいになってきているといえる。

ユーザーの利用用途では、企業における通信サービスとして、従来の非IP専用線やデータ通信のサービスから、IP-VPNや広域イーサネットなどのIPベースの通信サービスにシフトする傾向にある。また、目新しい点としては、ネットワークゲームのサービス基盤として、iDCでのシステム運用の需要増加が著しい。ネットワークゲーム市場も急成長していることから、今後のiDC需要の柱の1つとして期待されている。

レンタルサーバーサービスの活況 価格面でも機能面でも成熟へ

企業向けのITアウトソーシングサービスの1つとして、iDCは依然として重要な存在である。しかしここ数年、レンタルサーバーサービスの著しい低価格化と高

機能化の波によって、よほど特殊な用途でなければレンタルサーバーで十分であり、iDCを利用するまでもないという意見も多く聞かれる。

実際、価格とサービス内容の充実ぶりはすさまじく、『レンタルサーバー完全ガイド Vol.01』(インプレス)によると、最安値が共用サーバーで月額125円から、専用サーバーで月額6,800円から、仮想専用サーバーで月額1,785円からとなっている。上記の金額は、ホビーユーザーも対象としたサービスのものである。したがって、ビジネスで利用するのであれば、それなりの条件を満たすサービスを選ぶことになるため価格も高くなるだろうが、それでもiDCに比べるとはるかに格安となるはずだ。

また、同誌が調査対象としたサービスは1129サービス(コース)あり、基本スペック、機能にも様々な種類がある。これだけの数であれば、よほど特殊な用途でない限り、自分に適したサービスが見つからないということはまずないだろう。

企業の主要な用途は

レンタルサーバーが最多

『インターネット白書2005』(インプレス)が行った調査によると、iDCまたはレンタルサーバーなど、社外のサービスを利用しているケースは約半数で、利用している中では「共有ホスティング」がもっとも多

く(22.0%)、次いで「専用ホスティング」(16.9%)、そして「ハウジング」(12.7%)と続く(図1)。

ちなみに、社内での運用・管理を行っている企業については、調査対象となった企業が幅広く、事業内容によってはまったく必要としない企業もあることや、外部委託への抵抗などによるものと見ている。

さらに、社外のサービスを利用している企業に対して行った利用用途の結果では、「社外向けウェブサーバーの運用・管理」(71.6%)と「メールサーバーの運用・管理」(59.2%)が大部分を占めている(図2)。

ただし、3位以降は、社内向けウェブサーバー(イントラネット)やB2C、B2Bシステムの運用・管理となっており、一般的なレンタルサーバーサービスでは対応しづらいものや独自システムであるケースが高いもの、また機密上、運用・管理をより厳重な環境で行う必要があるものが並ぶ。この調査では、iDCとレンタルサーバーサービスを分けて、アウトソーシング(社外委託)としてまとめている。内容から主に3位以降が、iDCや高機能または特定用途に特化したレンタルサーバーの利用と見ることができだろう。

出展企業一覧

WebARENA Suite2/SuitePRO
NTTPCコミュニケーションズ p.114

SAVVIS
サヴィス・コミュニケーションズ p.116

CRC データセンター
CRCソリューションズ p.117

ラピッドサイト
GMOホスティングアンドテクノロジーズ p.118

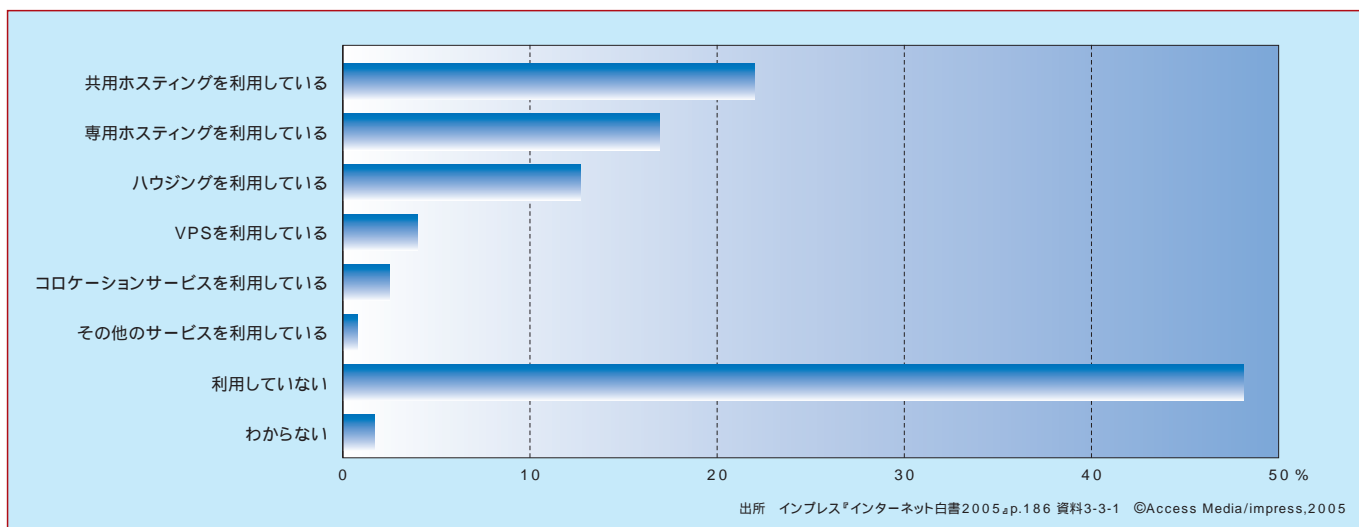


図1 データセンターやレンタルサーバーで利用しているサービス(複数回答) N=1,113

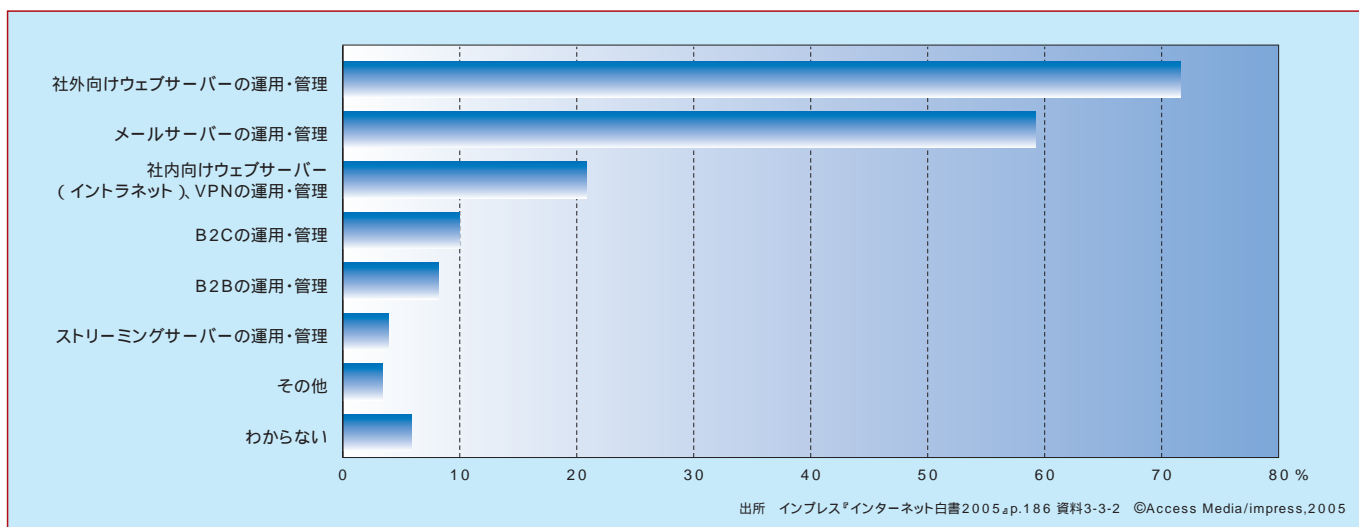


図2 データセンターやレンタルサーバーの利用目的(複数回答) N=559

アウトソーシングサービスの変遷

iDCとレンタルサーバーの進化

前述のように、レンタルサーバーサービスの充実によって、いまやiDCを利用せずとも大抵のインターネットサービスが構築できてしまう。では、いまあえてiDCを選ぶ理由とは何か。ここで、両サービスの違いというものを比較することになるのだが、現在のレンタルサーバーとiDCのサービスは、その内容を単純に区別して比較することが難しい。例えば、レンタルサーバーサービスで提供される高機能サーバーもあれば、iDC事業者が提供する、高機能サーバーがパッケージになった商品もある。iDCの運用・管理代行サービスを利用すれば、レンタルサーバーサービスを使うのと変わらないのではないか。

一昔前であれば、「レンタルサーバーサービス=ウェブ/メールサーバー」であり、「iDC=サーバースペース」という分かりやすいイメージがあった。実際、iDC事業者といえば、ファシリティの貸し出しが事業の中心であり、不動産業といっても

過言ではなかった。ところが、市場の変化や技術の進歩によって、それぞれのサービス内容も変化してきた。

レンタルサーバーサービスは、PCハードウェアの低価格化とLinuxをはじめとするフリーソフトウェアの登場により、設備投資が安く抑えられるようになったことで、サービスの価格競争も激化した。特に共用サーバーサービスは、ハードディスクの大容量化によって、1台で数百人のユーザーをホストできるようになったため、専用サーバーサービスを契約して、それを共用サーバーサービスとして提供する「再販ビジネス」も盛んに行われ、価格競争に拍車をかけた。同時に、このころはサービスによって回線速度やサポートなどの質に差があることも多く、ビジネス用途でしっかりしたシステムを提供するには、iDCを利用して自ら(またはSIerに依頼し)運用管理する必要があった。

その後、大手の通信事業者が参入したり、ビジネスユーザーを対象としたサービスの登場によって、高いコストパフォーマ

ンスと信頼性、機能がそろったレンタルサーバーサービスが登場した。専用線や広域イーサネット、VPNといった通信サービスとあわせて提供する事業者も現れ、公開ウェブサーバーだけではなく、社内システムとしても使えるものが現れた。

最近の主流は、共用型と専用型それぞれの利点を持つ仮想専用型で、低コストと柔軟性を実現している。また、ビジネス向けでは、パフォーマンスや可用性を保障するものも出てきており、サーバー構築と運用に関する技術の粋が結集されたようなサービスが存在する。

一方のiDCは、2000年前後に各社によって設備が建設されたものの、思うように上がらない利用率とドットコムバブル崩壊の影響によって、事業撤退や統廃合が進んだ。このころに、ファシリティ事業のみでは立ち行かず、生き残りのために競合との差別化を図ろうと、付加価値サービスに目を向けた事業者が現れた。それらは主に、マシンやネットワーク機器といった設備の貸し出しや運用代行(「マ

iDCとレンタルサーバーサービスの用語解説

iDCやレンタルサーバーサービスを説明する際、用語の意味が分かりにくいものがある。たとえば、iDCの「ハウジング」と「コロケーション」、レンタルサーバーサービスの「共有」と「専用」と「仮想専用」などだ。表に示すように、「ハウジング」はサーバーを設置するための場所と電源やインターネット回線などのインフラを利用するサービスのことで、iDCが従来提供していたものになる。また、「コロケーション」と呼ばれることもある。

「ホスティング」は、利用者ごとにディスク領域が割り当てられて、ウェブサーバー、メールサーバー、FTPサーバーなどの「サーバーの機能」を利用するサー

ビス。「レンタルサーバーサービス」もホスティングと同義である。

また、レンタルサーバーの種類としては、コンピュータ1台を複数のユーザーで共有する「共有サーバーサービス」。コンピュータ1台を1人のユーザーだけで使える「専用サーバーサービス」。そして、ソフトウェア的に、コンピュータ1台を複数のユーザーで共有しつつ、機能としては専用サーバーと同等のものが

利用できる「仮想専用サーバー」がある。これは、「VPS(Virtual Private Server)」や「VDS(Virtual Dedicated Server)」と呼ばれることもある。

現在、レンタルサーバーサービスは、上記の3種類が主流となっているが、さらに、専用サーバーの運用や管理の一部またはすべてを専門業者に代行してもらう「マネージド専用サーバー」というサービスも登場している。

iDCとレンタルサーバーサービスの用語解説

| | | | |
|--------------|---------------|--------------------------------------|-------------------|
| iDC | ハウジング、コロケーション | サーバーを設置するスペースや施設(サーバーラックなど)を借らせるサービス | 利用者が用意して、利用者が管理する |
| レンタルサーバーサービス | ホスティング | サーバーの機能を使わせるサービス | 事業者が用意して、事業者が管理する |

ネージドサービス」などと呼ばれる)システム構築といったiDCを利用する際に必要なサービスを、ユーザーが自分で用意するのではなく、iDCのサービスのメニューとして提供するというものであった。これが、さらに進み、「ウェブサーバー」や「データベース」など用途別にパッケージ化され、充実してきたのが最近のiDCの主流となっているサービスである。

選択のポイントは

「何をどこまで任せたいか」

説明してきたように、一見似たようなサービス内容でも、レンタルサーバーサービスとiDCではその成り立ちが異なる。レンタルサーバーサービスでは、サーバーでできることを追求し、iDCではサーバーの運用管理をはじめ、iDCの中でできることを追求する。その点で、iDCのほうがより幅広く、懐の深いサービスを提供できるポテンシャルがあるといえるだろう。実際、レンタルサーバーサービスの中にも、iDC事業者がサービスの1つとして提供しているものも少なくない。

様々な付加価値サービスを提供できるiDCの優位点は、一言でいってシステムに

せよ、サポートにせよ、柔軟なカスタマイズが可能であるという点だ。全体的なコストは、レンタルサーバーサービスよりも高い傾向にあるが、システムの設計や構築から運用管理までをトータルで委託できれば、場合によってはむしろ低コストに抑えられるかもしれない。また、最近話題になっている個人情報保護の問題などを考慮して、より厳重なセキュリティーや特別な管理体制を望む場合も、iDCなら対応できる可能性が高い。社内の基幹システムの運用も、iDCであればディザスタリカバリー(遠隔地バックアップ)といったサービスが利用できることもある。

いまも、ファシリティ事業に注力するiDCも存在するが、それはユーザーが通信キャリアであったり、レンタルサーバー事業者であるなど、スペースだけあれば自分で面倒を見ることができるところだ。今後の市場拡大は、一般企業のアウトソーシングが増えてくるため、付加価値サービスをさらに充実させるiDC事業者はますます増えてくるだろう。

ユーザーのビジネスや将来の展開まで把握した上で、システムの設計や構築段階から綿密に関係を保ち、単なるインフ

ラ提供者としてではなく、協業と呼べるほど深い領域まで入り込んだサポートが可能なiDC事業者も存在する。

したがって、iDCを利用するという明確な目的(または、レンタルサーバーサービスでは不十分な理由)がある場合はいうまでもなく、自社のシステム管理部門やその体制の見直しを検討していたり、他社にはない独自性のあるインターネットサービスの展開を予定している企業は、トータルサポートを展開しているiDCサービスを検討してみるべきだろう。

また、当面はレンタルサーバーサービスで十分な場合も、その事業者が提供しているサービスの幅(iDCや管理サービスも提供できるか)を、選択の際にチェックしておくといだろう。

レンタルサーバーサービスも、そのほとんどはどこかのiDCで運用管理されているのだが、自社でiDCも展開している事業者なら、仮にレンタルサーバーサービスから移行する場合でも、スムーズに進めることができる。

乱暴なたとえかもしれないが、レンタルサーバーサービスとiDCの違いは、回転寿司と高級寿司の違いのようなものといえるだろうか。最近の回転寿司は、味も決して引けをとらないものもあるが、全体の「もてなし度」では高級寿司店にはかなわない。低コストとスピードを求めるか、様々な付加価値を求めるかで使い分けるといだろう。

立地条件もiDC選びのポイント

iDCを選択する際、レンタルサーバーサービスにはない要素として「立地条件」というものがある。レンタルサーバーサービスは、基本的にリモートで利用するものであるため、「サーバーがどこに置かれているのか」はあまり重要ではない。海外か国内かも、利用面で大きな差はない。ところが、iDCの場合は、現場に行かなければならない機会も少なくない。トータルサポートで運用管理もすべて任せたとしても、まったく行く必要がないということはまれだ。

ユーザーがiDCを選択する際のポイ

ントとしてまず最初に挙げるのはコストで、次いで安全性やサポート体制、ファシリティの堅牢性と信頼性となる。その次にくるのが「立地条件(アクセスのしやすさ)だ。障害発生時に電源をリセットし直すといったサービスをiDCのほとんどが用意しているが、運用代行サービスを使っていない場合は、自社の人間がiDCまで行って復旧作業をする必要がある。その際、現場に行くまでに時間がかかったり、極端な交通費が必要というのでは、たとえ安いiDCを選んでも、結局はコスト高となる。

セミナーを終えたら
展示会場で
商品をチェック

Exhibition Hall

強固な施設と最大級のバックボーンを持つ高品質なホスティングサービス

WebARENA Suite2/SuitePRO

NTTPC コミュニケーションズ

[URL] <http://web.arena.ne.jp/>

ホスティング / ハウジングサービスの選択では、サービス内容や価格だけでなく、どれだけ信頼性と安全性の高いインフラを持っているかが重要となる。

NTTPC コミュニケーションズの「WebARENA」は、同社の持つ耐障害性の高いiDCや国内最大級のバックボーン回線を背景に、1997年から培ったノウハウを活かした高品質なサービスとして、多くのユーザーの支持を得ているサービスだ。

幅広いラインナップで ビジネスに適したサービスを選べる

NTTPC コミュニケーションズでは、自社のiDCやネットワークを利用したホスティング / ハウジングサービスとして、「WebARENA」シリーズを提供している。サービス開始以来、ハウジングサービス「WebARENA Symphony」、専用サーバーサービス「WebARENA Solo」、共有サーバーサービス「WebARENA Suite2」に加え、2005年5月からVPS(Virtual Private Server)サービスとして「WebARENA SuitePRO」を追加するなど、幅広いラインナップを展開し、ユーザーの用途に合わせて選択できるようになっている。

WebARENAの大きな特徴は、同社の高い技術力とインフラをベースにサービスが提供されているところだ。セキュリ

ティーや耐震・耐障害性の高い同社のiDCにサーバーが設置されていることはもちろん、40Gbps超の外部接続を持つ国内最大級のバックボーンによって快適なアクセスを可能としている。

また、情報セキュリティマネジメントシステムの認証基準の国際規格「ISMS認証基準」(Ver.2.0)および「BS7799-2:2002」を取得していることも特筆すべきだ。これらの規格を事業者全体で取得していることは、セキュリティの高いサービスを提供している1つの証といえる。

信頼性の高いウェブビジネスを確実に展開するためには、快適なアクセスとダウンタイムのない継続的なサービス提供が不可欠となる。これらのインフラをベースとし、1997年から8年間蓄積された同社の技術力があれば、信頼性の高いウェブビジネスの大きな味方となるはずだ。



規模や価格で選べる

WebARENA Suite2

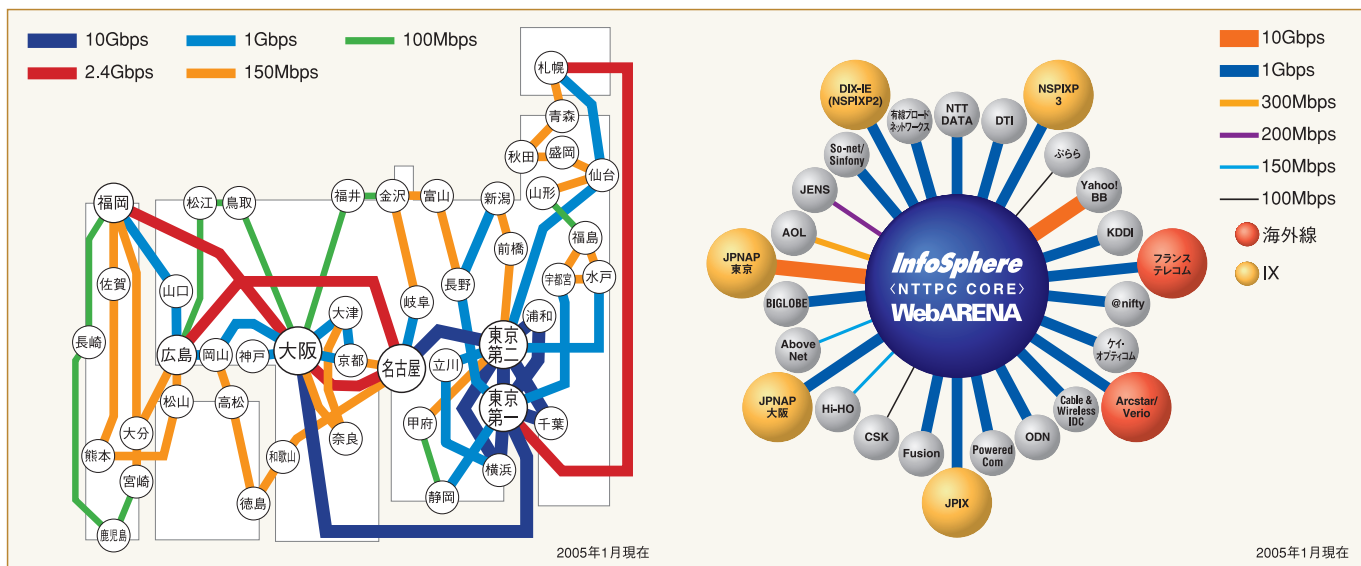
共有ホスティングサービスとして提供されているSuite2は、月額3,360円からの低価格で利用できる自由度の高いサービスだ。HDD容量を50MB単位(最大1GBまで)で選択することができるので、コストやビジネスの規模に合わせることができるだろう。

標準 / オプションで多彩なサービスを利用できることも大きな特徴だ。携帯対応のウェブメール、メーリングリスト、ブログ型の日記ツール「tDiary」などが無償提供され、高機能なグループウェア「desknet's e」を3割引でライセンス購入することもできる。不正なウェブ改ざんを防止するFTPのアクセス制御などセキュリティに役立つ機能も搭載されている。

メール機能では、メールアカウントを無制限に作成できるほか、セキュリティの高いサービス内容となっている点がうれしい。ウイルスやなりすましメールなどの問題が深刻化する中、メールのセキュリティを高めておかなければ企業の信用を失うことになりかねないので、メールウイルスチェックが無償で提供されていることは大きなポイントとなるだろう。また、メール受信時のパスワードを暗号化するAPOPや、スパムメール対策としてメールの不正中継を防止するOutbound Port25 Blockingに対応して、サブミッションポー

| VPS(仮想専用サーバー) | | | 共有サーバー | | |
|--|------------------------|------------------------|---|----------|----------|
| お客様のディスク | お客様のディスク | お客様のディスク | お客様のディスク | お客様のディスク | お客様のディスク |
| OSやウェブ、メール、その他アプリケーション | OSやウェブ、メール、その他アプリケーション | OSやウェブ、メール、その他アプリケーション | OSやウェブ、メール、その他アプリケーション | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアは共有 お客様のプログラム領域は独立 各プログラム / プロセスは独立しているので個別設定が可能 | | | <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアは共有 お客様のプログラム領域は独立 各プログラム / プロセスは共有 | | |

VPSでは、プログラムやプロセスがユーザーごとに独立しているため、個別設定が可能となる。



NTTPCコミュニケーションズの主要全国バックボーンネットワークと接続図。国内外のプロバイダや拠点との太い回線を持ち、国内最大級のバックボーンを誇る。

トにも対応。

Suite2が高品質なサービスであることは、ユーザーの定着率からも見て取れる。同社によれば、新規ユーザーの中で他サービスからの乗り換えが70%を超える一方、解約率は1%以下だという。他のサービスに不満を持っているユーザーも、コスト面/機能面で納得できるサービスとなっていることが分かる。

VPSの新サービス WebARENA SuitePRO

VPSとは、共有サーバーとして提供されているが仮想的にroot権限などを付与することで専用サーバーと同等な機能を利用できるサービスで、専用サーバー

よりも安価に提供されているものだ。VPSでは、CPUやメモリなどのハードウェアは複数ユーザーでの共有となるが、各種プログラムやプロセスは専用となるため、個別設定が可能で自由度が高く、拡張性も高い。

WebARENAの新サービスSuitePROもVPSサービスだが、1万円を切る低価格で6GBもの大容量HDDを利用できることが大きな特徴だ。専用サーバー並みの機能を他社の共有サーバー並みの価格で利用できるだけでなく、これだけの大容量であれば比較的規模の大きなビジネスでも楽に展開できるだろう。ウイルスメールチェック機能や、PostgreSQLとMySQLの両方を使えるデータベース機

能も基本サービスとして提供されている。メールアドレス数やデータ転送量が無制限なのうれしい限りだ。

OSとして、LinuxベースのFedora Core 3を搭載しているため、日ごろからLinuxに慣れ親しんでいるユーザーは便利に使えるだろう。VPSサービスのOSとしてはFreeBSDを利用しているケースが多いが、SuitePROであればLinuxが利用できる点は大きい。

ウェブビジネスが拡大していくにつれて、機能的にもスペック的にも一般的な共有サーバーでは不十分になってしまうはずだ。これだけの低価格でハイスペックのVPSを利用できるなら、共有サーバーからの乗り換えはもちろん、将来的な拡張を見越して最初から選択肢として考えることもできるだろう。

サービスの概要と料金

| | WebARENA Suite2 | WebARENA SuitePRO |
|-------------|---------------------------------|---------------------|
| 初期料金 | 3,150円 | 5,250円 |
| 月額基本料金 | 3,360円~ | 8,820円~ |
| メールアドレス | 無制限 | 無制限 |
| メールウイルスチェック | 無料 | 無料 |
| ディスク容量 | 100MB~以降50MBごとに月額1,050円 最大1GBまで | 6GB |
| データベース | PostgreSQL:月額2,100円 | PostgreSQL、MySQL |
| SSLオプション | 設定手数料: 8,400円 | OpenSSL |
| root権限 | | |
| バーチャルドメイン | | 無制限 |
| OS | | Linux/Fedora Core 3 |

問い合わせ先
 NTTPCコミュニケーションズ
 インフォメーションセンター
 03-5977-3777(平日9:30~18:00)
 suitepro@arena.ne.jp / suite@arena.ne.jp

先端技術を使ったiDC、IP-VPN、ホスティングサービスを展開

SAVVIS

サヴィス・コミュニケーションズ

[URL] <http://www.savvis.jp/>

サヴィス・コミュニケーションズは、小売業から金融業までの幅広い顧客に対してIP-VPNやマネージドホスティングを提供するグローバルなサービス提供企業だ。ユーティリティコンピューティングの概念を取り入れた先進的なサービスやCDN(Content Delivery Network)サービスなどを展開していることが特徴で、国内外で多くの企業の導入実績を持つ。

必要なリソースを柔軟に適用する ユーティリティコンピューティング

サヴィスのマネージドホスティングでは、ルーター、ファイアウォール、ロードバランサー、ストレージなどのリソースをユーザーが必要な分だけ購入・拡張できるリソース・オン・デマンドの環境を提供している。このサービスでは、ユーティリティコンピューティングの概念を取り入れることで、柔軟度が高く、コストを抑えたサービスを提供しているところが大きな特徴だ。

通常、このようなリソース・オン・デマンドなサービスを提供するには、物理的なリソースの在庫を用意しなければ対応できない。そのため、通常ならコスト高となっ

てしまいがちだが、サヴィスではデータセンター内にあるハードウェアなどの物理的リソースを仮想化し、独自に開発した運用管理システムによりマネージすることで全体の利用効率を高め、リーズナブルな価格での提供を可能としている。また、サーバー環境の拡張には、物理的なセットアップなどの手間がかかるが、サヴィスのサービスでは事前構成されたリソースをアサインするだけなので短期間での導入が可能となるという特徴も持つ。

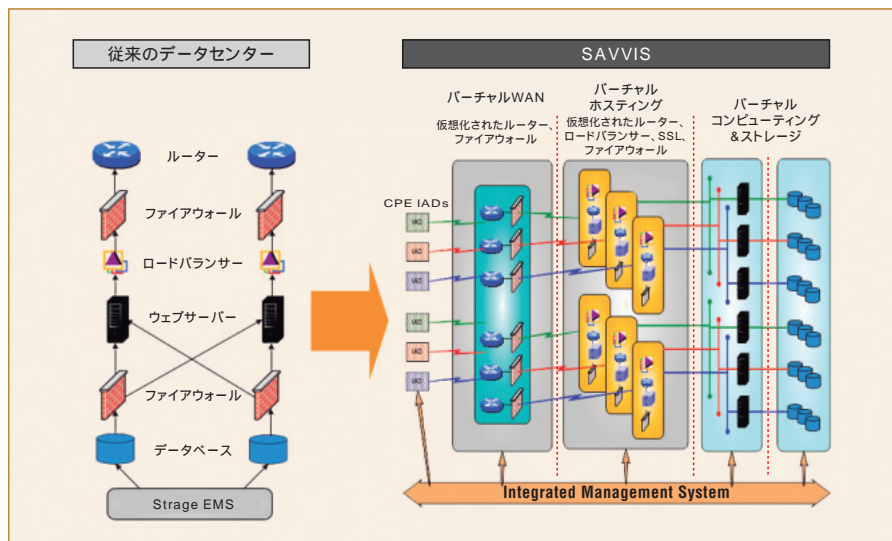
豊富なセキュリティサービスと コンテンツ配信を支援するCDN

サヴィスでは、S&S SAVVIS Security



Services) という名称で豊富なセキュリティオプションも用意されている。特定ホストに対しての侵入検知、24時間週7日体制の監視、およびセキュリティインシデントの対処を行う Host-Based Intrusion Detection Service(HIDS)と Utility Network Intrusion Detection Service(UNIDS)、不正の疑いのあるイベントや状況が発生した際に適切な処理を行う Incident Response(IR)、脆弱性のテストを行う Managed Vulnerability Scanning(MVS)などが提供されているため、安心して利用できる。

また、1997年から研究開発が繰り返され、多くのノウハウを持つCDNサービスにも注目したい。CDNとは、容量の大きなデジタルコンテンツを配布できるようにネットワークを最適化するサービスのこと。サヴィスのCDNでは頻繁にアクセスされるコンテンツをエンドユーザーに近い場所に置くことでパフォーマンスの向上とコスト削減を実現している。ストリーミング配信だけでなく、ソフトウェアのダウンロード、イメージや文書の配信など、CDNが必要とされる環境は意外と多い。サヴィスのCDNでは、これらのコンテンツ配布を迅速かつ確実にセキュアな環境でサポートしている。



従来のiDCとSAVVISのマネージドホスティングの違い。
各インフラを仮想化することで、柔軟な構成と拡張が低コストかつ素早く実現できる。

問い合わせ先
サヴィス・コミュニケーションズ株式会社
03-5219-0606
sales-jp@savvis.net



新しい渋谷 DC を中心に、ビジネスの課題に踏み込んだサービスを提供

CRC データセンター

CRC ソリューションズ

[URL] <http://www.crc.ad.jp/>

CRC ソリューションズでは、05 年 4 月に稼動が開始された渋谷データセンターを含め、横浜・神戸・大手町の 4 か所 5 施設のデータセンターを運営している。

同社の特徴は、単に施設やネットワークを貸し出して、技術サポートを行うだけでなく、Sler としての豊富な経験と技術力を活かし、コンサルティングなども含めたトータルソリューションとしてビジネスの課題解決を図るきめ細やかなサービスを提供していることだ。

さまざまな工夫が施された最新のデータセンター

CRC ソリューションズのデータセンターは、いずれも地震や津波等災害の危険が少ない地域に建設されている。当然、耐震や免震の設計が施されており、1994 年に稼動を始めた神戸コンピュータセンターは、翌年の阪神大震災でその耐震性を証明した。

その CRC ソリューションズが新たに開設したのが、東京・渋谷から徒歩 7 分、固い地盤の高台に位置する渋谷データセンター(SDC)だ。

セキュリティ対策も万全で 24 時間 365 日体制による有人監視はもちろん、ラック列毎に ITV 監視カメラを設置。また、有人マントラップ方式を採用し、入室権限のない人が共連れでサーバールームに入室できないような仕組みになっている。

さらに、近年の使用電源容量の増加に対応するために従来以上に電源・空調関連設備を充実させているほか、自家発電装置や多段構成の無停電装置を有し、必要であればさらに設備増強もできる。

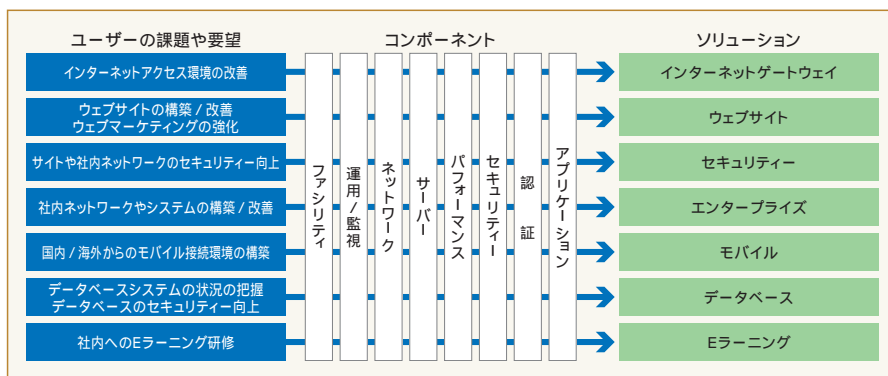
コンサルティングから運用管理までをトータルサポート

データセンターの役割は、サーバーなどの機器を置く施設や設置場所、およびネットワーク回線を提供することだ。しかし同社のデータセンターでは、SAP や Oracle など様々なビジネスアプリケーションについても、システムコンサルティングから設計 / 構築 / 運用まで一貫したサービスをワンストップで提供できることが大きな特徴だ。また、ロケーションや基本的な監視、運用サービスはもちろん、機器の調達、NW、セキュリティ、アプリケー

ションなど様々なサービスをコンポーネントにして用意し、必要なサービスを必要に応じて利用できる(下記図参照)。

ユーザーごとに ITCOX (ITComponent Organizer) と呼ばれる担当 SE が割り当てられ、技術的な問題はもちろん、システムの課題や要望に応じて必要な機能を組み立て、ビジネスに最適なシステムを構築し運用、管理を代行してくれる。ネットワークやファシリティなどのインフラとビジネスとして提供するサービスは切っても切れない関係となるため、システム管理部門になり代わって、トータルでシステムをアウトソーシング委託できることになる。

高い信頼と実績を裏付けるように、CRC ソリューションズでは、運用 / セキュリティ / データセンターの各分野で十数件の認証を取得している。経済産業省の定める認定制度や ISO 規格の登録をはじめ、プライバシーマークや情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)を取得している点は安心だ。また、サン・マイクロシステムズが定める認証プログラム「SunTone」を国内で初めて取得するといった実績を持っている。



構築から運用管理まで、各サービスや機能を「コンポーネント化」して組み合わせることで、ユーザーごとに最適化されたソリューションを提供できる。

問い合わせ先
株式会社 CRC ソリューションズ
 データセンター事業部
 03-5489-3121
 contact@crc.co.jp

多彩な標準機能を搭載したVPS サービスを提供

ラピッドサイト

GMO ホスティングアンドテクノロジーズ

[URL] <http://www.rapid.site.jp/>

世界 170 か国 / 50 万ドメインのユーザーを誇るレンタルサーバーサービスを展開するラピッドサイトは、専用 / 共有 / VPS の幅広いサービスを展開している。中でも、VPS サービスは、手軽に高い機能を利用できるサービスとして人気が高く最大 5GB の HDD 容量で複数ドメインが可能のため、さまざまなウェブビジネスでの活用ができるようになっている。

豊富な最新ツールの数々が
標準で利用できる

ラピッドサイトでは、共有プランの一部と VPS の全プランで、ブログツールの「Movable Type」、コミュニティ構築ツールの「XOOPS」、ネットショップ構築ツールの「osCommerce」を標準インストール済みで提供している。導入するソフトウェアを拡張したいケースも考えられるが、CGI の設定などに不慣れな人向けに、設定代行サービスも提供されている。

また、VPS サービスでは、MySQL データベースをブラウザベースで管理する「phpMyAdmin」やサーバー管理ツールの「Webmin」も搭載されているので、多機能なサーバー環境を簡単かつ迅速に管理運用ができるだろう。

導入のしやすさと
充実したサポートも魅力

ラピッドサイトの VPS サービスでは、1 週間の無料トライアルサービスも提供している。VPS 導入に際し、RV-301 プランと同等のトライアルサーバーを 7 日間試すことができるので、実際の使用感や機能の効果を事前に確かめることができ安心だ。試用したサーバーのデータは 7 日後に自動的に消去される。気に入って契約する際には、同じ設定のままでも継続して契約したり、別の構成で新規に設定することが可能だ。

VPS サービスの RV-31 シリーズでは高速なバックボーンを持つ国内 iDC にサーバーが設置されるなど、セキュリティ面での信頼性も高い。メール受信前にウイルスを駆除する日本ネットワークアソシエツの



「WebShield e500 Appliance」を採用している点も安心だ。さらに、RAID1 ミラーリング、HDD バックアップ、テープバックアップの 3 重のバックアップに対応しているため、障害発生時のデータ保護はもちろん、人的な不注意で情報を消失してしまった場合にも、すぐに元の状態に戻すことができる。

サポート面では、年中無休の無償サポート体制をはじめ、SLA 品質保証制度が用意されているのが頼もしい。SLA 品質保証制度は 99.9% の稼働率を保証するもので、サーバー障害などによって 99.8% 以下の稼働率となってしまった場合は料金の一部を返金する制度だ。さらに、契約後 30 日以内に解約手続きを行えば、月額利用料金が返金される 30 日返金保証制度も用意されている。これらの制度は、ラピッドサイトが自社のサービスに自信を持っている表れだと考えてよいだろう。

なお、問い合わせ後に希望すれば、直接ラピッドサイトを訪問して導入前の不安や疑問点を相談し、コンサルティングを受けることが可能だ。じっくり相談した上で前述の 1 週間のトライアルを受ければ、間違いないサーバー選びができるだろう。

サービスの概要と料金

| | RV-311 | RV-312 | RV-313 | RV-301 | RV-302 | RV-303 |
|-----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 初期設定料 | 10,500 円 | | | | | |
| 料金 (12 か月契約の場合) | 18,900 円 | 22,050 円 | 36,750 円 | 15,750 円 | 18,900 円 | 31,500 円 |
| HDD 容量 (GB) | 1.25 | 2.5 | 5 | 1.25 | 2.5 | 5 |
| iDC | 国内 | | | 米国 | | |
| バックボーン回線容量 | 127Gbps | | | 34Gbps | | |
| メールアカウント | 無制限 | | | | | |
| 独自 CGI | | | | | | |
| SSL | | | | | | |
| データベース | | | | | | |
| MovableType | 標準搭載 | | | | | |
| phpMyAdmin | 標準搭載 | | | | | |
| Xoops | 標準搭載 | | | | | |
| osCommerce | 標準搭載 | | | | | |

VPS サービス各プランのスペック。RV-31 と RV-30 は同様のスペックだが、データセンターの場所が国内か海外かで異なる。バックボーン回線容量の差も考慮しながら、提供するサービスの対象や内容によって使い分けるとよいだろう。

問い合わせ先
GMO ホスティング アンド テクノロジーズ株式会社
ラピッドサイト
03-6415-6226
info@rapid.site.jp



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp